

平成29年度 第2回 新潟市犯罪のない安心・安全なまちづくり推進協議会 議事録		
開催日時	平成30年2月1日(木) 午後2時00分～	
場 所	新潟市役所 本館 3階 対策室	
出席者	委 員	齊木委員 若月委員 渡辺(順)委員 後藤委員 比企委員 渡辺(律)委員 田中委員 寺瀬委員 大高委員 川崎委員 小林委員 計11人
	オブザーバー	竹尾小学校長 川崎 様
	事務局	市民生活部長 市民生活課長 市民生活部副参事 安心・安全推進室長 同主査 同副主査 計 6人
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市民生活部長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>4 第5次推進計画の策定について</p> <p>5 閉会</p> <p><input type="checkbox"/>齊木委員 &lt;挨拶&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>事務局 &lt;(1)平成29年の新潟市犯罪発生状況について説明&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>大高委員 資料1の2各区重点犯罪発生状況の表の中で、ゲートウェイ犯罪の中の万引きが全体的に増加しているのが気になる点です。特に中央区が70件も増加して473件になったということで、全体の4割強を占めているということです。被害者である事業所に対してこういった実態をよくお知らせして、今後の防犯対策の強化を更に働きかけていただけたらと思います。以上です。</p> <p><input type="checkbox"/>齊木委員 他にございませんか。なければ議事の(2)第4次推進計画における数値目標の達成状況に入ります。事務局から説明をお願いします。</p> <p><input type="checkbox"/>事務局 &lt;(2)第4次推進計画における数値目標の達成状況について説明&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>齊木委員 資料2の(3)の所で、先回の会議で私がお願いした登録台数を今回から明記していただきましてありがとうございました。登録団体も上がっておらず、登録台数もこの2～3年はそう差がないような趨勢が見えるので、登録団体に限らず台数のほうも上がればよいと思います。</p> <p>もう1点、これはご質問なのですが、資料2の(2)の注に記載されている子どもの体験型安全教室というのは、先ほどのご説明だと1年生が対象だということですが、例えば29年度だと子どもの防犯講習会は12月までで118回開催しており、1年生対象の子ども</p>	

の体験型安全教室の105回を引くと13回ですが、これは1年生以外の子どもを対象としているという意味なのでしょうか。

□事務局

105件は新しく1年生になった児童に対しての講習で、118件から105件を引いた13件はひまわりクラブ等で児童の方たちに講習を行った回数です。

□斉木委員

他にございませんか。なければ議事の(3)第4次推進計画の取り組み状況と重点取り組み事例に入ります。事務局から説明をお願いします。

□事務局

<(3)第4次推進計画取り組み状況と重点取り組み事例について説明>

□各区総務課担当者

<各区の取り組み事例について説明>

□事務局

最後に先ほども説明させていただきましたが、新潟駅前での活動について紹介させていただきます。新潟駅前には多くの市民も利用し、観光客の方も多く訪れる新潟市の玄関口がありますが、違法な客引きが街頭にいて、風紀が乱れ、誰もが安心して利用できなくなる危険性があります。そこで、昨年5月からは県警において警戒の強化を図り、更に10月からは、本市が事務局を努め、地域の商店街組合、自治会、コミ協などから組織される新潟駅前地区セーフティゾーン活動委員会においても、それまで月1回行っていた駅前でのパトロール活動を月3回に増やし、県警と連携した客引き防止に向けた活動の強化を図りました。そして、委員会の活動をより効果的に行うため、昨年12月からは、客引き防止を呼び掛ける広報テープを流しながらのパトロール活動を実施しています。このテープは、新潟市内にあります国際メディア専門学校声優科で将来声優を目指す学生さんに協力をいただき作成しました。本日は、せっかくの機会ですので皆様にもこのテープを聞いていただきたいと思います。

<啓発テープを再生>

このテープを流しながら現在も月3回の活動を実施しています。警察が強化を始めた5月以降、新潟駅前地区の110番通報の件数は3割程度減少しているとも聞いておりますので、今後も県警や地元の方々と連携を図り、誰もが安心して利用できる新潟駅前にしていくよう努めてまいります。

以上で、議事の「(3)第4次推進計画の取り組み状況と重点取り組み事例」の説明を終了します。

□大高委員

重点取り組み事例の各区が取り組まれた内容の中で、4ページの東区が取り組まれた地域安全マップづくりですが、どのようなことを子ども達が生かしたのか今お分かりでしたら教えていただけますか。

□東区総務課

この地域安全マップづくりというのは、実際に犯罪が起きた場所を確認するものではな

くて、犯罪から自分を守るという子どもたちの「気づき」の部分向上させる取り組みです。「入りやすく」、「見えにくい」という危険な場所を示すキーワードを基にして町を歩きます。例えばこの公園は周りから見えないけど入りやすい、こういう所が危ないんだということを実際に町を歩いて、メモを取りながら子どもたちが写真を撮ったりして作り上げるという取り組みになります。私もいいなと思ったのが、竹尾小学校の4年生のPTA授業で、地域教育コーディネーターさんとPTAの役員の方が主になって取り組んでおり、そこにコミュニティ協議会の役員の方も入って、マップづくりが地域全体の取り組みとなっているような事例があります。

□大高委員

子どもたちが体験しながら、どんな場所が危ないのかという意識を身に付けることができる、非常にいい取り組みだと思って聞かせていただきました。ありがとうございました。

□斉木委員

大高委員からのご発言があった東区の地域安全マップづくりについてご質問です。県主催のコンテストがあるということですが、これは新潟県のどこが主催していてどういう応募方法なのか、お分かりであれば教えてください。

□東区総務課

県の担当部局は県民生活・環境部の県民生活課になります。応募は7月から10月まで行っておりまして、新潟県では第7回目のコンテストになったわけですけど、応募が県内各地から74作品ありました。県ではマップづくり事業を進めるにあたって、まず初めにリーダー研修会というものを開催します。このマップづくりを提唱しております立正大学の小宮教授という方がおられるのですが、その方が研修会の講師となって各地域のマップづくりを一生懸命行っている方に指導して、それから各学校等が実施するという取り組みになっております。

□斉木委員

そのリーダー研修会に参加しないと、コンテストへの参加資格がないということですか。

□東区総務課

いえ、それはありません。

□斉木委員

そういう事業もやっているという意味なのですか。

□東区総務課

そうです。

□斉木委員

ありがとうございました。他にございませんか。

ないようですので以上で3の議事を終了します。続きまして次第の4「第5次推進計画の策定について」について、事務局から説明をお願いします。

<第5次推進計画の策定について説明>

□小林委員

具体的な素案はこれから作成するというのですが、第4次の内容を見て考えてきた事があります。項目的にはどういう所になるのか分かりませんが、2点入れていただければと思っています。

1点目は除雪の関係です。たまたま今年は除雪が色々問題になっておりまして、雪があると交通事故の問題も出てきます。通学路の問題も出てくるといいますし、事件があった時に消防や警察が臨場する妨害にもなるということで、雪が降らない時もありますけど、いざ除雪が必要になった時にすぐ手が打てるように何か体制をとってもらうことが大事かなと。体制だけ取っておいて雪が降らなければそれでいいわけですから。それが1点です。

もう1点は犯罪防止の関係で、主に警察だと思いますけど、情報の共有を何かできないかなと思っています。私は今から4年前に新潟東警察署長を務めたことがありまして、当時JR〇〇駅は無人駅だったので、ここが非常に真っ暗でして、残念ながらその年強姦事件が2件〇〇駅周辺でありました。機動捜査隊の職質と夜の警戒とDNAで犯人が分かって、捕まえました。それはよかったのですが、〇〇駅が真っ暗だ、何とかならないかということで、当時の東区役所に防犯灯をつけてくれと係同士で折衝させてもらったのですが、予算を組んでいないということで駄目だったのですね。ところが今教育長の前田さんが当時東区長をやっておられまして、直に頼みましたら、前田さんは女性だからなおさらですけど、それなら特別予算でやりましょうということで、防犯灯と防犯カメラをつけていただいて、今〇〇駅は非常に明るくなってよかったなど。こういう情報は事件を担当している警察が持っておりまして、どこまでそれを出すかという問題もあるのですが、要は学生とか女性の方が被害に遭わなくなればいい話なので、そういう所はやっぱり警察と情報共有をして、対策を打つ何かが出来ないのかなと。出陣式とかもちろん大事ですが、具体的な生の情報を何とか吸い上げて、対策を打っていかないと、そういう所がエアポケットになっているのかなと思いますので、素案の中の項目に何か検討していただければと思います。以上です。

□事務局

関係機関と連携しながら、皆様の意見を計画に入れて策定していきたいと思っています。

□大高委員

5月頃までに事務局のほうで作成する素案ですが、第4次推進計画を基にして、目標値が空白のものをお示しされるということなのですが、空白だと委員がそれを拝見したときにそれをどういう風にしたらいいのかが分からないと思います。例えば目標値が書いてあればそれが多いのか少ないのか実績に基づいて色々考えることもできるのですが、空白にされる理由をお聞かせ願います。

□事務局

ご意見ありがとうございます。理由としては、目標値を時代とともに見直す必要があるのではないかと考えておりまして、あらかじめ目標値を入れることで皆様方の考えが誘導されるのを防ぐために、あえて空白にして、目標値の見直しも含めて皆様に考えていただきたいということでございます。ただ、全く何も書いていないとそれも難しいという意見を伺いましたので、そのご意見も踏まえて素案を考えていきたいと思っています。

□川崎委員

第5次推進計画のスケジュールのお話を伺って、全体を通したお話の中で気づいた点をお話ししたいと思います。その前に市でお示ししております重点取り組み事項ですが、振

	<p>り込め詐欺を含む特殊詐欺、侵入盗、それから子どもと女性のような犯罪弱者を対象とした防犯対策というのは、本年の県警の重点犯罪取り組みでもあります。まさに市の取り組みと重なっている部分ということで、今後も新潟市と連携をしていきたいと考えております。資料5の推進計画の概要の中で方策などが列挙されておりますが、こういったものを計画するということは、その方策の中の細目として色んな取り組みを市のほうで掘り下げて、実現可能性のあるものを施策として実現していくという方向になると思います。</p> <p>行政の厳しい財源の中で取り組む施策も当然あるのですが、例えば安全安心マップの取り組み事例がありましたが、担当の方からのご説明もあったとおり、子どもの気づき、危機回避の能力を高めていくということで、非常に防犯教育の上では効果があると私も考えております。ただ、出来上がった成果物のマップはそのままかという問題があります。それを見るのは大人であり、行政であり、あるいは警察です。子ども達が目で見えて地域を知る、あるいは保護者と一緒に回って自分達の住む環境を知って、マップが出来上がると。これは地域の防犯環境を高めていくために、そのマップを使うということが究極の狙いなのではないかと思えます。従って、安心安全マップづくりのフィールドワークをどのチームがいつやっても同じ所が危険箇所になるということが何年も続いているようでは、はっきり言ってそういう活動は無意味ではないかということです。子どもの安全意識を向上させるという一方の効果はあっても、肝心の子どもを取り巻く環境は何も変わらないということでは、マップづくりの究極の狙いというものを実現されないということにもなると思えます。</p> <p>県警も住民の方からの要望があった場合、警察の予算で出来ることはどんなことなのかと考えます。管内の危険箇所、防犯環境整備の点で警察で出来ることは何か、そしてもとより行政の新潟市さんが防犯環境整備で出来ることは何かあるのかという所を5次の推進計画の中に盛り込んでいただいて、県警と新潟市で共同して犯罪のない安全で安心な防犯環境の新潟市を作っていくという取り組みに繋げていければと考えます。以上です。</p> <p>□事務局 先ほどのマップに関しましては、どういった形で活用出来るのか、今後検討していきたいと思っております。また第5次推進計画につきましても県警さんと一緒に連携して計画を進めていきたいと思っておりますので、色々のご意見とご協力をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>□斉木委員 他にいかがですか。他になければ以上で会議を終了します。大変お疲れ様でした。スムーズな進行にご協力いただき、ありがとうございました。以上で会議は全て終了しました。事務局にお返しします。</p> <p>□事務局 ありがとうございました。それでは以上で平成29年度第2回新潟市犯罪のない安心・安全なまちづくり推進協議会を閉会いたします。お疲れ様でした。</p>
報道	なし
傍聴者	1名